

2006 年度

<p>科目名</p> <p style="text-align: center;">身体表現と社会 A</p>	<p>対象学科・学年</p> <p style="text-align: center;">人間人社 2 回生</p>	<p>担当者</p> <p style="text-align: center;">村尾 敏彦</p>
<p>授業テーマ</p> <p style="text-align: center;">身体の中の社会、あるいは、演劇としての社会</p>		
<p>授業の概要と目標</p> <p>ゲームで身体を動かすことから始めます。ゲームの動きに従ったやりとりの中で、しだいに共感的な空間をつくっていきます。それは、人はひとりでは生きていないことが、感じ取れる空間です。次に、身体表現に移ります。グループになって、様々なテーマにそって、自分たちの表現内容を相談して合意を形成します。そして、彫刻のオブジェのように動きのないイメージ群を身体で表現したり、マイムによって言葉を使わずに物語を作り上げます。暑くて体育館を使えなくなったら、普通教室でビデオを活用し日本現代演劇について考えます。</p>		
<p>評価方法</p> <p>授業中にパフォーマンスの課題をだす。それを評価する。</p>		
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて、プリントを配布する。</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>参考書</p>	<p>著者</p>	<p>出版社</p>
<p>授業スケジュール・内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 名前を覚えよう! 2. 触覚のコレスポダンス 3. リズムを伝える 4. 見えないボール 5. イメージ 6. 物語をつくる 7. 重力を感じる 8. 歩き方 9. キャラクターづくり 10. 目を閉じて走れ! 11. ジバリッシュ 12. 日本演劇について—鈴木忠志 13. —野田秀樹 (夢の遊民社) 14. —平田オリザ (青年団) 15. —鴻上尚史 (第三舞台) 		